

アキサケ資源調査

黄金崎 栄一・鈴木 史紀

調査目的

青森県太平洋沿岸に来遊する秋サケ資源の来遊経路及び漁場特性を把握し、今後の秋サケ資源の適正な管理及び漁業調整施策の資料とする。

調査の内容と方法

東通村尻屋から階上町の太平洋沿岸漁協所属の漁船（10トン未満の漁船で委託期間は10月～12月）に調査を委託し、延縄漁法（1操業当り15鉢以内）によって図1に示す5分升目の調査海域内で分布状況・移動回遊等について調査を実施した。

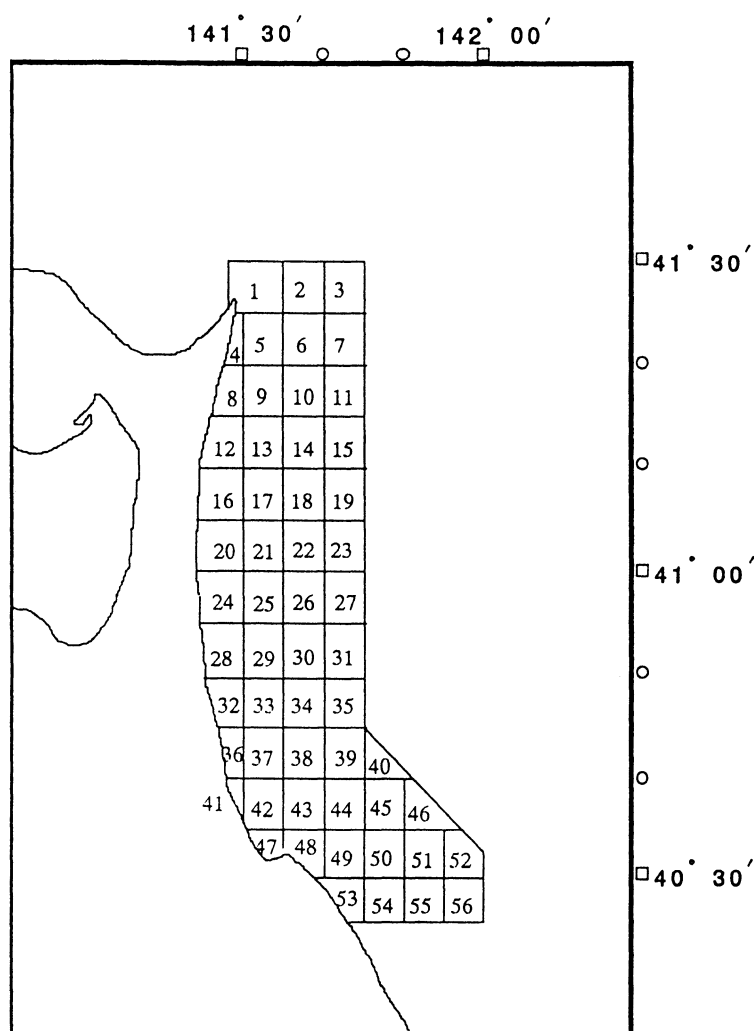


図1 延縄試験操業海域図

調 査 結 果

1. 1992年度調査結果について

1992年の延縄調査委託船の調査概要を表1に示した。操業隻数は承認隻数101隻に対し39隻であった。

延操業回数は247回、使用鉢数2,583鉢、総漁獲尾数8,338尾、水揚金額は13,015,131円であった。

表1 1992年漁協別延縄試験操業結果

漁 協 名	出漁隻数	出 漁 期 間	操業回数	使用鉢数	漁 獲 尾 数	放流尾数	水 揚 金 額
階 上	8 (20)	11/24-12/22	109	860	4,037 (内ギン 2,670)	58	5,914,608円
南 浜	12 (20)	11/ 3-12/18	62	918	2,797 (" 2,417)	109	4,590,996
鮫 浦	8 (10)	11/15-12/ 1	42	384	732 (" 697)	35	1,012,693
白 銀	2 (5)	10/16-11/30	6	20	68 (" 43)		110,393
八 戸	0 (1)						
百 石	0 (3)						
三 沢	0 (3)						
六ヶ所	1 (1)		1	15	50 (" 50)	2	85,400
六ヶ所海水	0 (4)						
泊	0 (4)						
白 糠	8 (30)	12/ 4-12/16	27	386	654 (" 386)	31	1,301,041
計	39 (101)		247	2,583	8,338 (" 6,263)	235	13,015,131

1) 海域別操業回数

図1の調査海域内で操業した調査船の操業回数を図2に示した。

漁期を通じての漁場利用頻度は南部海域の、北緯40度25分～35分に囲まれた範囲の利用が多く、特に鮫角東方沖の海域No.49、50、51の利用が多く見られた。また、北部海域では南部海域に比べ利用が少なく沿岸域での操業がほとんどであった。

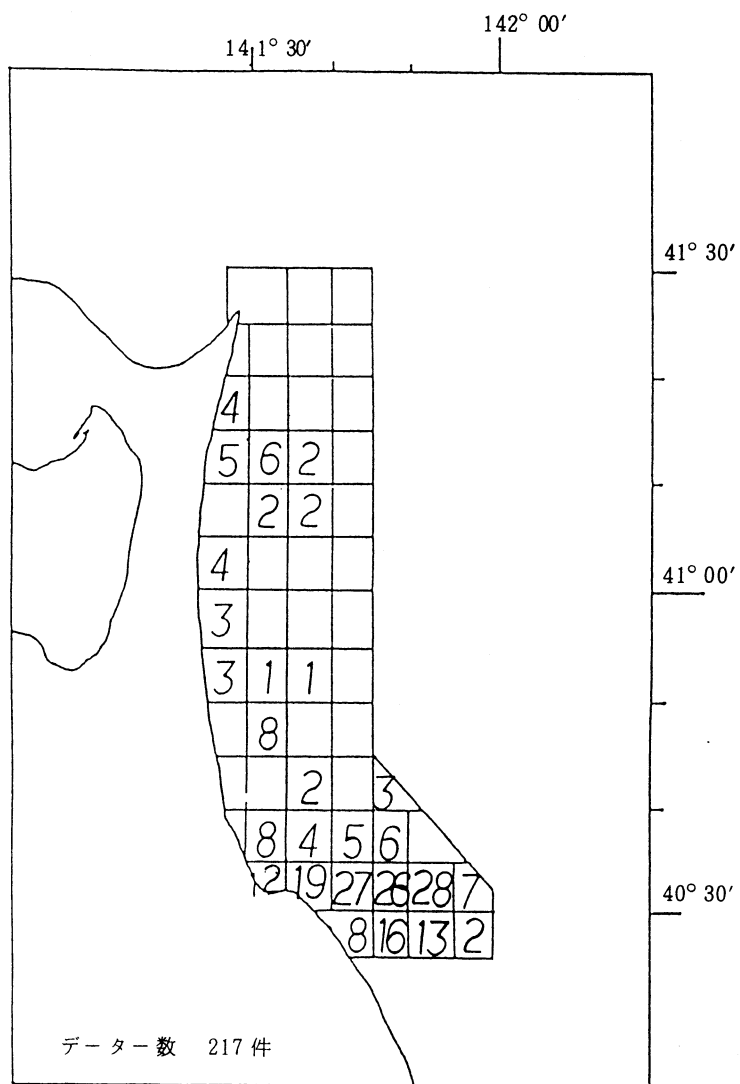


図2 1992年海域別操業回数

2) 分 布 密 度

図3に海域別CPUE（1鉢当りの漁獲尾数）を示した。今年は28海域での操業がありCPUE 0尾の海域が4海域であった。漁場は北部では沿岸寄り、南部では沖合に主として形成された。

北部海域での出漁船は白糖で8隻、出漁期間は12月4日～16日の短期間の出漁であった。CPUEが高い海域はNo.14の8.17尾で、その他の操業海域ではCPUE 3～5尾程度となっていた。

一方、南部海域（北緯40度50分以南）では最も多く漁獲された海域はNo.40のCPUE 6.15尾で、他の海域ではCPUE 3尾前後であった。

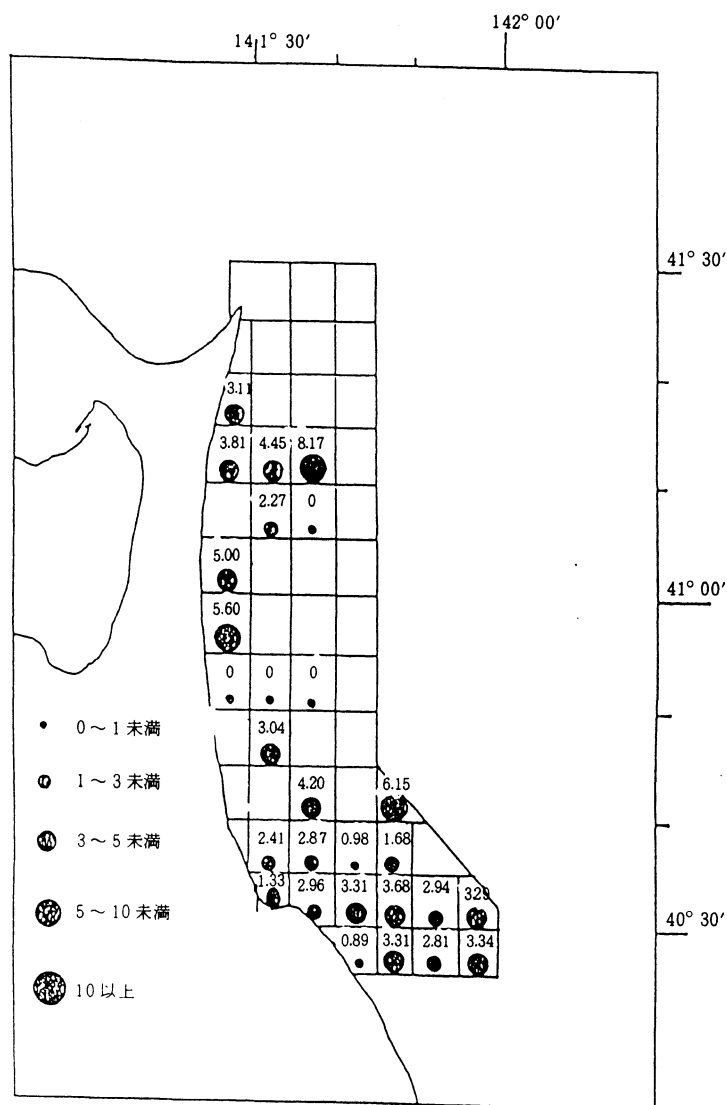


図3 1992年海域別CPUE（一鉢当りの漁獲尾数）

3) 移 動 回 遊

標識放流の実施状況を図4に、再捕状況を図5に示した。

全期間を通じて235尾のサケ親魚の標識放流を実施し、再捕尾数は4尾（内1尾放流海域不明）、再捕率は1.7%であった。

再捕海域は4尾の内1尾は本県沿岸域での再捕、3尾は岩手県沿岸域での再捕となっており、この結果から移動回遊は南下傾向にあったものと考えられる。

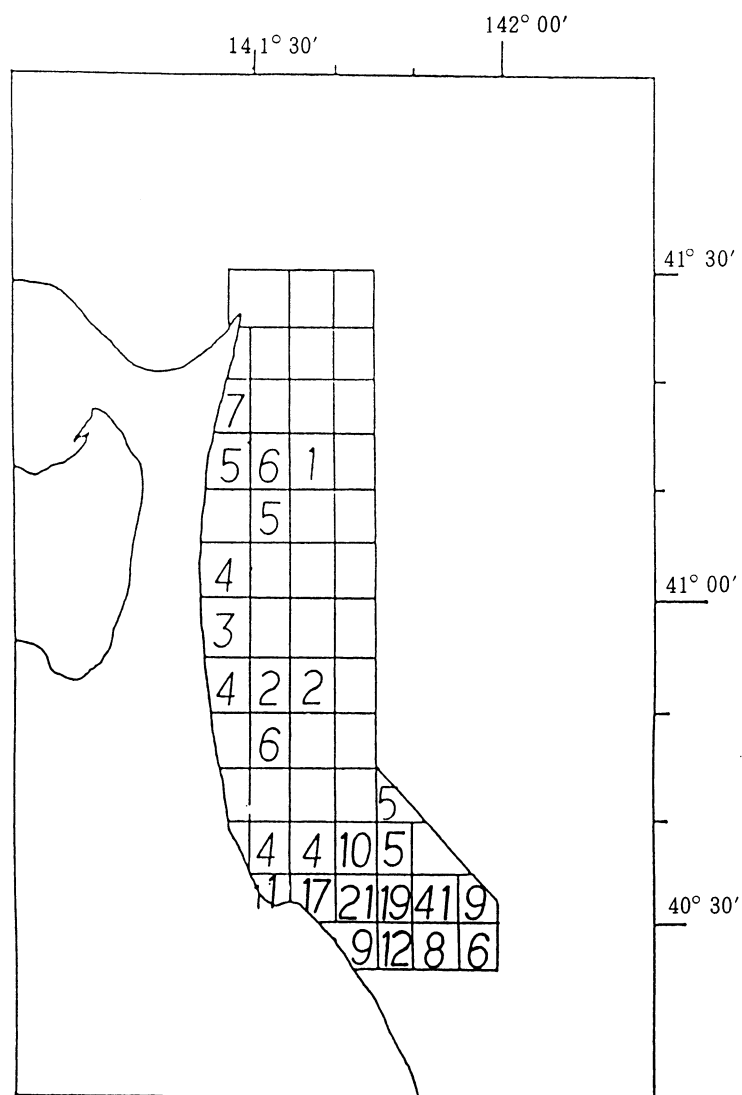


図4 1992年海域別放流尾数

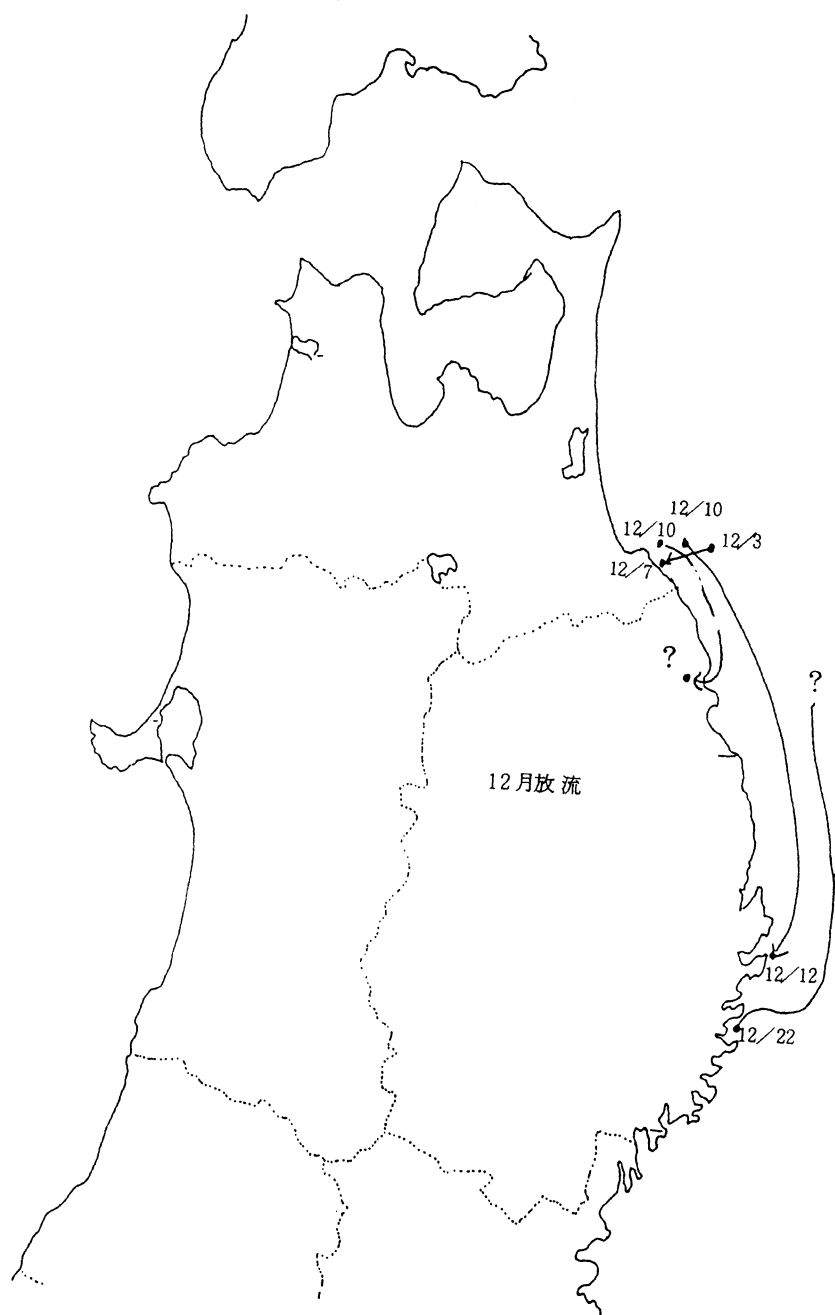


图5 1992年再捕状况

2. 1993年度調査結果について

1993年の延縄調査委託船の調査概要を表2に示した。操業隻数は承認隻数86隻に対し41隻であった。

操業回数は336回、使用鉢数3,555鉢、総漁獲尾数16,252尾、水揚げ金額は14,677,698円であった。

表2 1993年漁協別延縄試験操業結果

漁協名	委託隻数	出漁隻数	出漁期間	延出漁日数	使用鉢数	漁獲尾数	ギン	ブナ	放流尾数	水揚げ金額
階上	20	16	11/8~12/21	169	1,845	8,083	3,186	4,897	45	7,471,722
八戸市南浜	17	8	11/11~12/20	63	842	3,755	3,348	407	62	3,300,519
八戸鮫浦	14	14	10/26~12/22	95	802	4,097	4,013	84	70	3,618,779
八戸市白銀	3	0		0	0	0	0	0	0	0
八戸市	1	0		0	0	0	0	0	0	0
百石町	3	0		0	0	0	0	0	0	0
三沢市	3	0		0	0	0	0	0	0	0
六ヶ所村	2	0		0	0	0	0	0	0	0
六ヶ所村海水	1	0		0	0	0	0	0	0	0
泊	4	0		0	0	0	0	0	0	0
白糠	18	3	11/7~12/13	9	66	317	226	91	13	286,678
合計	86	41		336	3,555	16,252	10,773	5,479	190	14,677,698

1) 海域別操業回数

調査海域毎の操業回数を図6に示した。

調査船は三沢～階上沖での操業が多く三沢以北での操業はわずか1回であった。最も多く操業された海域はNo.49の29回で次いでNo.43、53の25回であった。

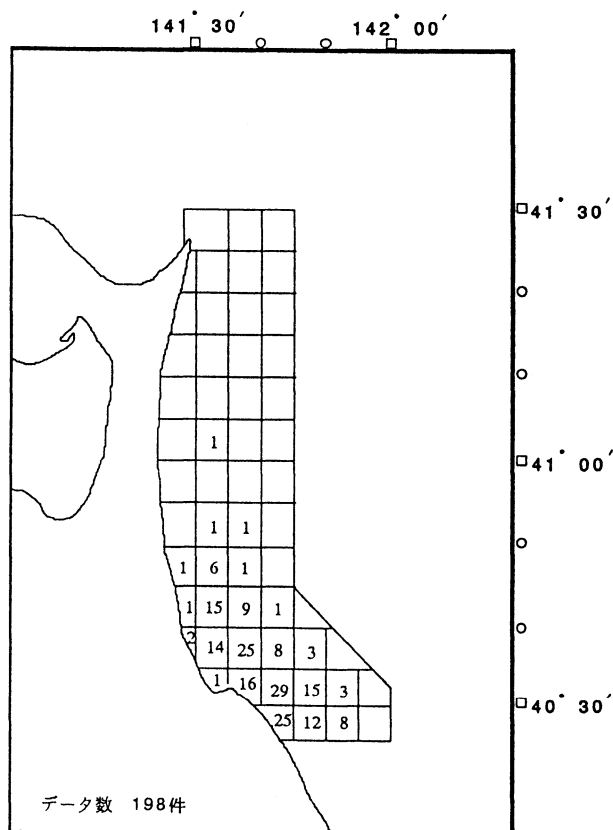


図6 1993年海域別操業回数

2) 分布密度

図7に海域別CPUE（1鉢当りの漁獲尾数）を示した。最も多く漁獲のあった海域はNo.41、45でCPUEは10尾以上であった。またCPUE 5～10尾未満の海域が7海域、CPUE 3～5尾未満の海域が4海域、CPUE 1～3尾未満の海域が9海域、CPUE 0尾の海域は1海域であった。

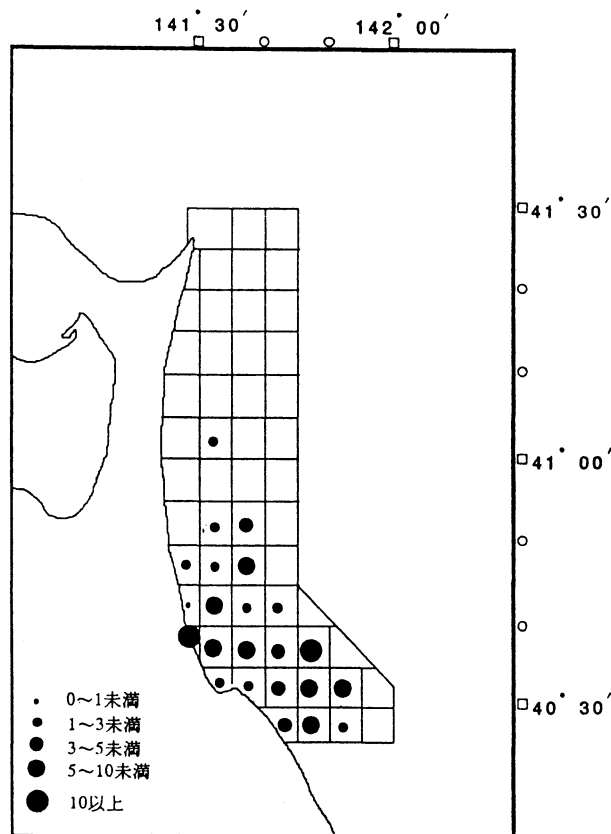


図7 1993年海域別CPUE（一鉢当りの漁獲尾数）

3) 移動回遊

標識放流の実施状況を図8に、再捕状況を図9に示した。

放流尾数は全期間を通じて190尾の放流を実施し、再捕は2尾1.1%であった。再捕場所はいずれも岩手県沿岸で回遊は南下傾向を示していた。

ま と め

調査委託船の出漁状況は1992年は予定の38.6%、1993年は47.6%であった。比較の出漁隻数が多かった地区は、階上・南浜・鮫浦・白糠地区でその他の地区では出漁する船は少なかった。

各地区の水揚げ金額を見ると、1992年は階上では591.4万円・南浜では459.0万円・鮫浦では101.2万円・白糠では130.1万円、一隻平均はそれぞれ73.9万円・38.2万円・12.6万円・16.2万円であった。1993年は階上747.1万円・南浜330.0万円・鮫浦361.8万円・白糠28.6万円、一隻平均ではそれぞれ46.6万円・41.2万円・25.8万円、9.5万円であった。

漁場は1992年は南部及び北部海域に形成され、1993年は南部に形成された。漁期を通じての漁場形成は、南部海域は比較的長期間見られるが、北部海域では短期間しか形成されないようである。

標識放流については、1992年の再捕率は1.7%、1993年は1.1%といずれも低い再捕率となったが、2カ年ともサケは南下する傾向にあった。

これらのことから、南部海域では漁場が形成され、水揚げも多く見られると考えられるが、北部海域は漁獲が少ない。

秋さけ延縄漁業を総合的に評価するためには、今後も調査を継続して回遊生態等の資料の蓄積をはかって行くことが必要と考えられる。